

課題と展望

本シンポジウムは、大学生の協調性や忍耐力の欠如が問題視される中で着目されはじめた「学生寮のもつリビングラーニングコミュニティ機能」をとりあげ、先進的な取り組みをする4つの大学の学生寮での実践事例を広く提供することを目的の1つとして開催したものである。そもそも学生寮に焦点をあてたシンポジウムは極めて珍しく、特定のテーマに特化して「深める」ことよりも、まずは、先進的な実践を「大学の戦略と教育可能性」という観点から「広める」ことを目指してのことである。

シンポジウムの前半では、首都大学東京・京都産業大学・立命館アジア太平洋大学・お茶の水女子大学それぞれの学生寮、特に戦略的に教育機能をもたせている学生寮での実践報告を行った。参加者アンケートによれば、参考になったとの声（「大いに参考になった」＋「参考になった」の回答）がいずれの報告でも97%を超えており、多くの参加者から好評であったことが示されている。

シンポジウムの後半では、各大学の報告に対するディスカッションペーパーをもとに、フロアディスカッションを行った。参加者アンケートによれば、参考になったとの声（「大いに参考になった」＋「参考になった」の回答）がおよそ9割に達しており、概ね好評であったことが示されている。ただし、多くの広範にわたる意見・質問が寄せられたにもかかわらず、フロアディスカッションにあてる時間を予定よりも短縮し、質問をまとめて講演者に投げかける形式とせざるを得なかったことは運営上の大きな課題である。参加者アンケートの自由記述からは、「ディスカッションの時間が短い（短くなったのが残念だ）」「フロアから直接口頭で質問をしたい」といった意見もみられた。「時間の短さ」に関する意見・要望は、各大学からの報告に対しても挙げられており、運営上の課題であるとともに、参加者の関心の高さが表れた結果ともいえるだろう。

参加者の関心の高さは、シンポジウムの前後に希望者に対して実施した「お茶大 SCC 見学会」や「情報交換会」への参加状況からもみてとれる。

シンポジウムの開始前に実施した「お茶大 SCC 見学会」は「先着30名」という枠で募集を行ったが、早々にこの枠は埋まってしまった。その後も希望者が多くみられたため、見学会を予定より早い時刻から3回にわたって実施することとし、計102名（シンポジウム参加者の50.3%）もの方に見学をしていただいた。多くの方に見学していただくことができた一方で、参加者アンケートの自由記述からは、「難しいと思うのだが」という前置きつきであるが、「シェアハウス内を見学したい」といった要望もみられた。学生が実際に生活している場を「見学の場」として示すことは難しい問題であるが、どのような方法であればその様子を示すことができるのか検討していきたい。

シンポジウム終了後に実施した「情報交換会」にも73名（シンポジウム参加者の36.0%）の方に参加いただいた。ディスカッションペーパーでは、「共通質問」とは別に「各大学への質問」を募り、多くの具体的な質問・意見が寄せられたが、その多くに対しては、シンポジウム内での対応ができなかった。しかし「情報交換会」という場を別に設定し、多くの方に参加いただくことで、参加者個々のおかれている状況のやりとりも行いながら、報告者と議論を重ねている様子が随所でみられた。さらにいえば、報告者とのやりとりのみならず、参加者同士での挨拶を兼ねての情報交換も活発に行われていた。これまで決して盛んであったとはいえない「学生寮に関わる担当者間でのネットワーク作り」という点からも、本シンポジウムの果たした意義は大きいといえよう。

先にも述べたが、本シンポジウムは、特定のテーマに特化して「深める」ことよりも、まずは、そこでの先進的な実践を「大学の戦略と教育可能性」という観点から「広める」ことを目的の1つとしていた。今後、より発展させていくためにも、「より多くの実践事例を提供する機会」を継続的に設けていくこととともに、「関心の高い、特に、関係者の間で関心の高いテーマに特化して「深める」機会」も視野にいれていきたい。

2012年2月、大学教育学会課題研究委員会（「現代における学生支援の課題と展望」）とお茶の水女子大学学生支援センターの共催により、本シンポジウムの企画につながる研究会を30名程度の規模で開催した。ここでは、福岡女子大学とお茶の水女子大学の学生

寮での実践、中でもピアサポートの側面に焦点をあて、学生も交えての議論を行い、そこでの課題についても掘り下げることができた。今後は、こうした機会をワークショップ形式で設けることも検討していきたい。例えば、SWOT 分析などを用いて各大学・学生寮の状況や課題を可視化し、他との比較検討や議論をすすめるような場も有益ではなかろうか。

最後に、今後のテーマ選定の参考にすべく、ディスカッションペーパーに寄せられた質問・意見の中から、主なものを挙げておきたい。

- 集団生活になじめない学生への対応
- 寮生活やそこでのプログラムの成果（それを測る方法も含めて）
- 清掃や門限などの寮則指導（違反者への対応、ペナルティなども含めて）
- 盗難や寮生間のトラブル対応
- 退寮希望者や部屋移動希望者（複数名同室の場合）への対応
- （リーダーシップをとるような）意識の高い寮生（班長、RA、ハウス長など）の選考・育成方法、待遇（インセンティブ）・優先権（プライオリティ）
- 寮生が寮で暮らしていない学生に与える影響（効果）
- 学生寮を通しての学生支援が大学としての評価にいかにつながっているか
- 大学側の財務管理・経済的補助（寮費、空室負担金、人件費、プログラム費用など）
- 学生寮運営にかかわる教職員に期待されるスキル
- 教育機能をもつ学生寮を計画する際に空間的に配慮すべきこと

いずれも「学生寮のもつリビングラーニングコミュニティ機能」にかかわる重要なテーマであり、今後、多くの大学にとって「深める」ことが求められる観点であると思われる。

学生支援センター・准教授 望月 由起